



SGN News



第44号 2024年9月
滋賀グリーン活動ネットワーク
ニュース

～滋賀から「グリーン経済」をつくる～

企画広報事業 グリーン購入シンポジウム2024

「サーキュラーエコノミーで『未来よし』な社会をつくる」

【会場(キラリエ草津 市民総合交流センター 6階 大会議室)】

◆開催日:2024年6月4日(火) ◆参加者:約81名

プログラム	■開会挨拶	秋山 道雄 (SGN会長)
	■基調講演	「廃材から資源へ新たな価値を生み出すバロリゼーションの3条件」 大山 修一氏 (総合地球環境学研究所 研究部/ 京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科 教授)
	■情報交換会	



大山 修一氏

循環経済(サーキュラーエコノミー)とは、従来の3Rの取組に加え、資源投入量・消費量を抑えつつ、ストックを有効活用しながら、サービス化等を通じて付加価値を生み出す経済活動であり、資源・製品の価値の最大化、資源消費の最小化、廃棄物の発生抑止等を指すものです。限られた資源を無駄にしない、繰り返し使うという考え方は、事業者として事業を展開する上で生産、販売、消費のどの段階においても重要な課題となっており、循環経済を実現させることは、国連の「持続可能な開発目標(SDGs)」とも一致し、また滋賀県が目指すMLGs(Mother Lake Goals マザーレイクゴールズ)とも重なります。今回のシンポジウムではアフリカ ニジェールにて食品堆肥化に取り組まれて来られた総合地球環境学研究所/京都大学大学院教授の大山修一氏にご登壇いただき、廃棄される食品を活用して都市のごみ問題だけでなく、貧困や戦争からの脱却をも試みられてきた事例をご紹介いただきました。また情報交換会では、様々な視点から『未来よし』な社会について参加型で考えました。

基調講演「廃材から資源へ新たな価値を生み出すバロリゼーションの3条件」 大山 修一氏

バロリゼーション(valorization)とはマルクス経済学の用語であり、もともと原料に労働力と技術を使って製品にする、有価値化、価値の付与という意味ですが、資源学的意味としては、無益なもの、有害なものに、労働力と技術を使って製品(有益なもの)にすることです。総合地球環境学研究所 有機物循環プロジェクトでは、都市に集まった食料やエネルギーなどの資源の一部はゴミとして廃棄されますが、世界各地で有効活用されていないのが実情であるため、そのごみを有効活用して、荒廃地の緑化や環境修復、農業生産の改善につなげる、有機物の循環システムをつくるというのが目標とのこと。スローガンは「自然から得たものは自然にかえす」。アフリカと京都市内での事例に加えて、ご自宅のコンポストの事例もお話いただき、まずは自宅から始めてみよう、と思った参加者もいたようです。

情報交換会 ①エコ交通 ②生物多様性・森林 ③廃棄物活用・食 ④MLGs の4つのグループに分かれて、自由に議論していただきました。人数に偏りがあったため、声が聞きづらいグループもありましたが、皆さん活発にご議論いただきました。

会員交流会 情報交換会終了後、場所を移動して会員交流会を開催いたしました。40名近くのご参加があり大変盛り上がりしました。食品ロス0(ゼロ)の素敵な交流会でした。

INDEX



- グリーン購入シンポジウム2024 1
- 特集「グリーン購入+エシカルキャンペーン」宣言項目の変遷 .. 2
- 2023年度 グリーン購入+エシカルキャンペーン参加団体一覧 .. 3
- 新規会員からひとこと 3
- 滋賀グリーン活動ネットワーク「2024年度 事業計画」.. 4
- 2023年度中に寄付をいただいた団体 4
- エコ情報室 生物多様性しが戦略2024～自然・人・社会の三方よし～ 5
- SGN会員でつながりレイトーク セトレ マリーナびわ湖 .. 6
- 今さら聞けない用語集 6
- 潮流『循環型ファッション～環境とファッションの両立』
『食品ロス速報値(2022年度)に経済損失
及び温室効果ガス排出量推計値追加』
『断熱・健康・省エネ』『大事に使おう～「金継ぎ」』 7
- SGN入会特典 7
- 会員発エコ商品情報 8

特集

「グリーン購入+エシカルキャンペーン」 宣言項目の変遷

実践促進+暮らし方普及

2002年に10月を「グリーン購入キャンペーン月間」と定め、「グリーン購入キャンペーン」が始まって早や22年。2019年からはエシカル消費を含めた持続可能な滋賀県発の新しい消費行動を日々の生活に定着させる目的で事業者と消費者双方に向け、「グリーン購入+エシカルキャンペーン」が始まりました。

県内小売店、会員事業者、県内市町の協力を得て、ポスター、POPの掲示、店内放送、広報誌、ホームページ等による啓発を行っています。

2019年～2021年の「参加宣言」は下記の6つ+1でした。

- マイバッグ・マイボトルを持って出かけます。
- 包装の少ないものや、つめかえ品を選びます。
- 滋賀県産(地元産)の商品を選びます。
- 「フェアトレード商品」を選びます。
- 「買い物メモ」を持っていきます。
- 近い所は、車を使わずに、自転車や徒歩でいきます。
- オリジナル宣言(その他、あなたが「やってみよう」と思うことを書いてください)



2022年には「グリーン購入」の基本原則を考慮して、まずは「必要性の考慮」が明確になるように、宣言をSTEP0からSTEP2まで増やし、段階的に取り組めるようブラッシュアップしました。その後、STEP0とSTEP1は固定とし、STEP2について毎年見直しをしています。STEP2については世の中の動きも考慮してもっと皆さまに知っていただきたい、取り組んでいただきたいと考えている項目です。オンラインにて宣言いただくと、各項目の説明があり、参加宣言をしながら、自然と読んでいただくための工夫を凝らしています。

2022年～

《宣言STEP0》

- ① 買う前に、本当に必要かどうか考えます。

《宣言STEP1》

- ① マイバッグ・マイボトルを持って出かけます。
- ② 包装の少ないものや、つめかえ品を選びます。
- ③ 滋賀県産(地元産)の商品を選びます。
- ④ 「フェアトレード商品」を選びます。
- ⑤ 「買い物メモ」を持っていきます。
- ⑥ 近い所は、車を使わずに、自転車や徒歩でいきます。

《宣言STEP2》 2022年からは次のステップとなる《宣言STEP2》を追加しました。

2022年

- ① 食材を無駄なく使い切ります。
- ② 生ごみでコンポスト(堆肥)を作ります。
- ③ 洗剤など量り売りを利用します。
- ④ 家の照明をLEDに変えます。
- ⑤ まちの給水スポットを利用します。
- ⑥ 買い替え時には、省エネ家電を選びます。(エアコン、冷蔵庫、テレビ、暖房便座等)
- ⑦ 再生可能エネルギーを選んで契約します。



2023年

- ① 「しがプラチャレンジの日(毎月1日)」に取組みます。
- ② 生ごみでコンポスト(堆肥)を作ります。
- ③ 天ぷら油等の使用済み食用油をリサイクルします。
- ④ 容器持参で買える量り売り(洗剤・食品等)を利用します。
※食品は清潔な容器に入れ、衛生的に取り扱いましょう。
- ⑤ 家の照明をLEDに変えます。
- ⑥ マイボトルへの水分補充は、まちの給水スポットを利用します。
- ⑦ 家の断熱リフォームを行います。
- ⑧ 省エネ家電に買い替えます。(エアコン、冷蔵庫、テレビ、暖房便座等)
- ⑨ 電気は、再生可能エネルギーを選んで契約します。

2024年の《宣言STEP-2》は以下の通り決定しました。ぜひ皆さま宣言いただき、みんなで「未来よし社会」を作りましょう!

2024年 《宣言STEP2》

- ① 「しがプラチャレンジの日(毎月1日)」に取組みます。
- ② 生ごみでコンポスト(堆肥)を作ります。
- ③ フードドライブに協力し、食品ロスを削減します。
- ④ MLGs(マザーレイクゴールズ)の動画を視聴して、びわ湖に根ざす暮らしのことを考えます。
- ⑤ 省資源・省エネルギーで、快適な暮らしを心がけます。

ご協力
ありがとうございます
ございました

2023年度 グリーン購入+エシカルキャンペーン参加団体一覧

実践促進+暮らし普及

団体名	グリーン購入+エシカル	エコトリップ	廃棄物削減・3R	CO2ネットゼロ	顧客・社員・職員 その家族への呼びかけ	キャンペーン 景品協力
アインズ(株)	○	○	○	○		
(株)アケボノ	○	○	○	○		
アケボノ特機(株)	○	○	○	○		
(株)イケダ光音堂	○	○	○	○		
(株)一花						○
(株)ワイードプランニング	○	○	○	○		
SE電設	○	○	○	○		
(株)エスサーフ	○	○	○	○		
(株)エム・デー・エス	○	○	○	○		
近江印刷(株)	○	○	○	○		
近江鉄道(株)	○	○	○	○		
大阪ガス(株) 滋賀事業所	○	○	○	○		
太田印刷所	○	○	○	○		
(株)太田種苗	○	○	○	○		
大津紙業写真印刷(株)	○	○	○	○		
(株)大森商会	○	○	○	○		
(株)奥山ポンプ商会	○	○	○	○		
音伍繊維工業(株)滋賀営業所	○	○	○	○		
(株)オフィス・サービス	○	○	○	○		
オフィースタル(株)	○	○	○	○		
兼松総合印刷(株)	○	○	○	○		
企業組合ねっこの輪	○	○	○	○		
(株)さじまや	○	○	○	○		
キシステム(株)	○	○	○	○		
(株)木の家専門店 谷口工務店	○	○	○	○		
木村文具	○	○	○	○		
(有)キャリアネットワーク滋賀	○	○	○	○		
(株)清友商会	○	○	○	○		
草津板金(有)	○	○	○	○		
クテムラ	○	○	○	○		
熊谷電工(株)	○	○	○	○		
コスガ印判	○	○	○	○		
(株)国華社 びわ湖花街道						○
(株)湖睦電機	○	○	○	○		
(株)コンセ	○	○	○	○		
サイテック(株)	○	○	○	○		
(株)斎藤ポンプ工業	○	○	○	○		
佐々木印刷(有)	○	○	○	○		
(有)澤五車堂	○	○	○	○		
三協高圧(株)	○	○	○	○		
(株)サンクス	○	○	○	○		
(株)サンコー製作所	○	○	○	○		
(株)サンファミー	○	○	○	○		
三陽建設(株)	○	○	○	○		
サンライズ出版(株)	○	○	○	○		
(株)しがさん経済文化センター	○	○	○	○		
(株)滋賀銀行	○	○	○	○		
(株)滋賀原木	○	○	○	○		
滋賀ビジネスマシン(株)	○	○	○	○		

企業

団体名	グリーン購入+エシカル	エコトリップ	廃棄物削減・3R	CO2ネットゼロ	顧客・社員・職員 その家族への呼びかけ	キャンペーン 景品協力
(株)シバタブプロセス印刷	○	○	○	○		
(株)シミズ事務機	○	○	○	○		
(株)松栄サービス	○	○	○	○		
上西産業(株)	○	○	○	○		
新江州(株)	○	○	○	○		
(株)ジンジ	○	○	○	○		
進々堂商光(株)	○	○	○	○		
(株)杉山電設	○	○	○	○		
(株)ずさ平	○	○	○	○		
(株)スマイディア	○	○	○	○		
ゼネラルサプライ(株)	○	○	○	○		
(有)創業	○	○	○	○		
ソエダ(株)	○	○	○	○		
(株)ダイフク	○	○	○	○		
(有)高宮ビジネス	○	○	○	○		
(株)タグチ	○	○	○	○		
(有)田中印刷所	○	○	○	○		
田中建材(株)	○	○	○	○		
(株)田中誠文堂	○	○	○	○		
谷口印刷(株)	○	○	○	○		
(有)タニグチオフィスシステム	○	○	○	○		
タネダオフィスシステム(株)	○	○	○	○		
田淵卓商店	○	○	○	○		
(株)タマヤ	○	○	○	○		
(有)他谷無線商会	○	○	○	○		
(株)中央精器 滋賀支店	○	○	○	○		
TDS(株)	○	○	○	○		
帝産湖南交通(株)	○	○	○	○		
(株)デジ・プリント滋賀	○	○	○	○		
鉄屋商事(株)	○	○	○	○		
寺村書店	○	○	○	○		
トーア(株)マキノ工場	○	○	○	○		
トヨタモビリティ滋賀(株)	○	○	○	○		
トラヤ商事(株)	○	○	○	○		
長岡産業(株)	○	○	○	○		
中川テント(株)	○	○	○	○		
(株)西堀	○	○	○	○		
日本電気硝子(株)	○	○	○	○		
(有)畑中金物店	○	○	○	○		
(株)パルス	○	○	○	○		
(株)ハンパ	○	○	○	○		
(有)ハンパタイプ	○	○	○	○		
(有)東興竹堂	○	○	○	○		
(株)ヒキタ事務機	○	○	○	○		
(株)ヒサダ昭栄堂	○	○	○	○		
(株)平柿文仙堂	○	○	○	○		
琵琶湖汽船(株)	○	○	○	○		
びわ湖放送(株)	○	○	○	○		
藤野商事(株)	○	○	○	○		

企業

団体名	グリーン購入+エシカル	エコトリップ	廃棄物削減・3R	CO2ネットゼロ	顧客・社員・職員 その家族への呼びかけ	キャンペーン 景品協力
(株)プリセット	○	○	○	○		
(有)ふるぎ	○	○	○	○		
(株)文昌堂	○	○	○	○		
(株)平和堂	○	○	○	○		
豊国商事(株)	○	○	○	○		
(株)本庄	○	○	○	○		
(有)正木屋商店	○	○	○	○		
(株)ミタカグループホールディングス	○	○	○	○		
(有)南商店	○	○	○	○		
宮川印刷(株)	○	○	○	○		
(株)宮川商店	○	○	○	○		
(株)ムーヴテック	○	○	○	○		
(株)村田自動車工業所	○	○	○	○		
守山ガス器具センター住設(株)	○	○	○	○		
(株)ヤサカ	○	○	○	○		
(有)柳印刷店	○	○	○	○		
(株)ヤマジ	○	○	○	○		
(株)ヤマダ	○	○	○	○		
(有)山田東店	○	○	○	○		
(有)ヤマダ油脂	○	○	○	○		
(株)山名印刷	○	○	○	○		
(株)ユニース	○	○	○	○		
リコージャパン(株)	○	○	○	○		
大津市	○	○	○	○		
草津市	○	○	○	○		
東近江市	○	○	○	○		
彦根市	○	○	○	○		
米原市	○	○	○	○		
野洲市	○	○	○	○		
栗東市	○	○	○	○		
日野町	○	○	○	○		
(特非)愛のまちエコ倶楽部	○	○	○	○		
(特非)碧いびわ湖	○	○	○	○		
(公財)淡海環境保全財団	○	○	○	○		
グリーン近江農業協同組合	○	○	○	○		
滋賀県生活協同組合連合会	○	○	○	○		
滋賀県地域女性団体連合会	○	○	○	○		
公立大学法人滋賀県立大学	○	○	○	○		
滋賀中央森林組合	○	○	○	○		
社会福祉法人八身福祉会 八身共同印刷	○	○	○	○		
輪の国びわ湖推進協議会	○	○	○	○		
(株)アダムスセキュリティ	○	○	○	○		
(有)オービット	○	○	○	○		
(株)キョトモエックス	○	○	○	○		
(株)京滋マツダ	○	○	○	○		
(有)Kカンパニー	○	○	○	○		
(有)大正堂商事部	○	○	○	○		
日本防火産業(株)	○	○	○	○		
(株)ホンダクリオ滋賀	○	○	○	○		
(株)モリワキ印刷	○	○	○	○		

企業

行政

団体

企業(非会員)

計 148団体



2024年度はみんなでもっとがんばるぞー! 報告書の提出 お待ちしています

新規会員からひとこと

2024年2月1日から2024年7月31日までの入会者(団体名の50音順)

現会員数: 431 団体

[企業355、団体54、行政22]

(2024年8月1日現在)



株式会社第一総合企画

代表取締役社長 古川 勉 氏

当社は、滋賀県で3店舗のアフラック認定サービスショップを運営しており、独立法人として県内最多のアフラックご契約者をお守りし、オンラインでのご契約や給付金デジタル請求サービスによりペーパーレス化を推進しております。どうぞよろしく願いいたします。



WEF 技術開発株式会社

代表取締役社長 青山 章 氏

活性酸素を安価で発生させる装置を開発、それを使って常温、高温、水中で有機物を効率よく処理できる「システム」を販売しています。SGNの会員の方々にご利用頂けると幸いです。



滋賀グリーン活動ネットワーク 「2024年度 事業計画」

ミッションの位置付け

A. 事業者の環境行動の水準を高める	D. 未来に向けて活動を深める
B. 会員の想いと活動をつなげる	
C. 「未来よし」な暮らしを広める	

ビジョン	滋賀から「グリーン経済」をつくる ～ 産・官・民・学と協働してMLGs*の達成を目指し、子や孫の世代まで幸せや豊かさを実感できる持続可能で「未来よし」な社会をつくる ～			
ミッション	A. 事業者の環境行動の水準を高める	B. 会員の想いと活動をつなげる	C. 「未来よし」な暮らしを広める	D. 未来に向けて活動を深める
事業名	実践促進事業	連携推進事業	暮らし方普及事業	企画広報事業
2024年度事業	1. グリーン購入+エシカルキャンペーン (事業者対象) 2. 自治体のグリーン購入 担当者連絡会議 3. GPプラン 滋賀事業【県委託】 ① 実践講座×6回 ② 基礎研修会×4回 ③ 登録者ヒアリング・実践支援 ④ ナイスハート購入制度PR等 4. 中小企業者サステナビリティ 自主調査推進プロジェクトへの参画	1. グリーン経済フォーラム 2. 食のグリーン購入研究会 3. ゼロエミッション研究会 4. エコ交通研究会 5. 生物多様性と環境・CSR研究会 6. MORIと暮らしの研究会 7. 会員交流の場の提供	1. いちおしグリーン商品リスト 2. 自治体部会「買うならエコ!」リレー 3. 啓発資料の作成・貸出 4. 講師派遣事業 5. 地域事業への出席・参加 6. 地域の関係団体との連携 7. グリーン購入+エシカルキャンペーン (消費者対象)	1. 会員総会 2. 会員情報交換会(シンポジウム) 3. ニュースレター 2回発行 4. ホームページ随時更新 5. メールマガ・FAXリレー 12回発行 6. SNSによる情報発信 7. 会員紹介者の表彰等 8. 政策提言 他
	○CO ₂ ネットゼロ社会に向けたグリーン購入の側面からの事業者の取組を推進するため、会員の活動を一歩前に進めるキャンペーンを展開し、同時に事業者へのMLGsの普及啓発を行います。 ○県内自治体間の連携強化のため、情報交換を含めた会議を行います。 ○グリーン購入に取り組む中小企業者の登録制度「GPプラン滋賀」では、環境面に福祉面を加えた事業者のCSR/CSV活動を支援します。 ○認定NPO法人 環境市民主催のプロジェクトに参画することにより、会員企業の環境意識の向上を後押しします。	○グリーン購入をはじめとする消費行動を通じた課題解決の研究を推進します。 ○各研究会連携によるフォーラム開催を通して、CO ₂ ネットゼロ社会の実現に向けた循環型社会の形成を目指し、企業、行政、市民がなすべきことについて、グリーン購入に軸足を置いて考える機会を創出します。 ○会員が主体的に企画・運営に関わる研究会は、会員の交流・連携の場でもあります。ぜひ、興味のある研究会に参加してください。新たなテーマの研究会をつくることも可能です。 ○これらの活動を通じ、MLGsの達成を目指します。	○Web掲載をしている会員のお薦め商品リストについて、活用しやすい形での案内を検討します。 ○自治体間の連携の取組を一層進めるための活動として、県内自治体連携の啓発リレーを継続実施します。 ○大学や地域講座へ会員講師を派遣しますので、ご相談ください。 ○地域団体と連携することで、グリーン購入普及啓発の機会を創出します。 ○グリーン購入にエシカルの視点をプラスした行動を広げるキャンペーンを県に協力をいただきながら今年も実施し、同時に県民へのMLGsの普及啓発を行います。	○昨年に引き続き、対面による会員総会、シンポジウムを開催し、会員による事業紹介やフードドライブなどを会場内で行います。 ○会員の取組紹介やエコトピックス等、最新のグリーン購入情報満載のニュースレターを年2回お届けします。 ○SNS (特にInstagram)を活用して、SGN活動のよりタイムリーな情報発信を行うと共に、MLGsの周知に繋がる発信も行なって参ります。 ○新規会員を紹介してくださった会員の表彰等を行います。 ○関係機関との意見交換の場を創出します。
担当部会	実践促進部会	連携推進部会	暮らし方普及部会	企画広報部会
中期目標 2023～2025年度	キャンペーン参加団体数 年間200団体を目指す	1. 会員の参加カバー率を3年間で上げていく 2. 研究会に参画する会員を増やす	キャンペーン個人参加者 年間1万人以上を目指す	年1回以上活動に参加する会員を 3年間で70%に引き上げる

*MLGs(Mother Lake Goals マザーレイクゴールズ)：琵琶湖版のSDGsとして、2030年の環境と経済・社会活動をつなぐ健全な循環の構築に向け、琵琶湖を切り口として設定された滋賀県独自の13のゴール(<https://mlgs.shiga.jp/>)

中期計画2年目となる、2024年度の事業計画は上記の通りです。中期目標を既に達成しているC.「未来よし」な暮らしを広める(暮らし方普及事業)も含め、他の3つのミッションの目標達成のため、会員の皆さまのご協力をよろしくお願いいたします。「みんなで!構えないで!楽しく!」活動してまいりましょう。

2023年度中に寄付をいただいた団体 ※寄付日順



- イオンペット株式会社 (有料レジ袋収益金)
- イオンベーカリー株式会社 (有料レジ袋収益金)
- 株式会社 未来屋書店 (有料レジ袋収益金)
- イオンリテール株式会社 (有料レジ袋収益金)
- 株式会社 メガスポーツ (有料レジ袋収益金)
- びわ湖チャリティー 100km 歩行大会実行委員会

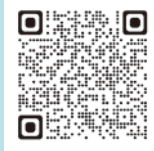
ありがとう
ございました。
大切に使用させていただきます。



エコ情報室

生物多様性しが戦略2024 ～自然・人・社会の三方よし～

滋賀県琵琶湖環境部自然環境保全課生物多様性戦略推進室



しが戦略
QRコード

社会・経済活動の基盤となる生物多様性を守り、未来に引き継いでいくため、滋賀県の生物多様性の保全と持続可能な利用に関する2030年までの基本計画として、「生物多様性しが戦略2024」(以下、「しが戦略」)を2024年3月に策定しました。

◆社会・経済活動と生物多様性の関わり

わたしたちの暮らしは、自然が育むさまざまな恵みに支えられています。例を挙げれば、自然は、大気や水、土壌の質を保ち、水や食料、木材、衣類、医薬品を供給し、気候を調節し、自然災害の影響を緩和し、文化を育むなどしています。

一方で、生物多様性は、国内外で急速に失われ続けています。土地劣化に伴う生産性の低下、花粉媒介者の減少、沿岸部での洪水リスクの上昇など、その影響は既に各所で顕在化しており、自然やその恵みに依存する世界のGDPの半分超(44兆ドル)は潜在的な危機下にあるとされています。

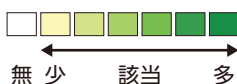
しかし、同時に、自然への配慮が組み込まれた経済に移行することで、年間10兆ドルのビジネスチャンスや、約4億人の雇用を生み出すともされています。

こうしたことから、経済界を含め、国内外で、自然への負荷を減らし、生物多様性を回復軌道に乗せるための取組が進められており、しが戦略の策定はこうした動きに呼応するものです。

(出典) 生物多様性と生態系サービスに関する地球規模評価報告書、IPBES, 2019
The Future of Nature and Business, 世界経済フォーラム, 2020

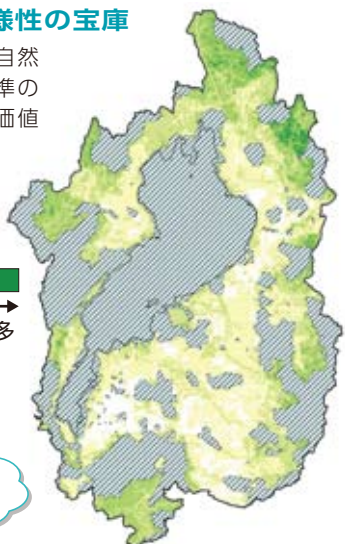
■滋賀は生物多様性の宝庫

ほとんどの場所が、自然共生サイトの認定基準のうち、生物多様性の価値に関する基準に該当!



既存の保護地域

県土の41.6%!
(167,616ha)



◆生物多様性しが戦略の概要

◎長期目標 (2050年)

自然と人とが共生する社会の実現

森・川・里・湖のそれぞれで多種多様な在来の生きものが見られ、自然の恵みがさまざまな文化や産業を育み、豊かな暮らしを支えている社会

◎短期目標 (2030年)

生物多様性の損失を止め、回復軌道にのせる ネイチャーポジティブ(自然再興)の実現

生態系の劣化が抑えられ回復に向かい始め、外来種の負の影響が軽減し、現在深刻な絶滅の危機に瀕している生き物がその危機から遠ざかる

◎象徴的な保全目標

生態系の劣化に対応するとともに、保護地域 および保全地域(OECM)を5,000ha拡大

※保護地域：法令により保護されている区域

[例：自然公園等]

※保全地域(OECM)：民間の取組等によって生物多様性の保全が図られている区域。環境省で

「自然共生サイト」として認定。[例：企業緑地、社寺林等]

短期目標の実現に向け、
3つの方針のもとで取組を推進



保全 3つの多様性
(生態系・種・遺伝子)の保全

活用 自然を守り、活かすことによる
社会課題の解決、社会経済活動の推進

行動 身近な生物多様性への気づき、
共生社会の実現に向けた土壌づくり

◆事業者のみなさまとの連携への期待

～豊かな自然とともにある活力ある滋賀の 未来に向けて一緒に取り組みましょう!

目標の実現は、事業者の皆さまをはじめとする多様な主体と行政との連携によって、はじめて可能となります。ご協力よろしく申し上げます!

SGNから

滋賀県がグリーン購入に取り組む事業者の裾野を広げ、さらに環境保全活動の促進を図ることを目的に運営している「グリーン購入実践プラン滋賀登録制度(GPプラン滋賀)」(運営事務局：滋賀グリーン活動ネットワーク)の「自己評価チェックシート」の項目は、現在グリーン購入やCO₂ネットゼロ等様々ですが、生物多様性の取り組みについても追加を検討中です。積極的な取り組みをぜひよろしくお願いします。

Relay Talk

SGN会員でつなぐ

リレートーク>>>

株式会社ラーゴからのご紹介

株式会社ホロニック
セトレマリーナびわ湖

ゼネラルマネージャー 波田 裕明さん



セトレマリーナびわ湖は琵琶湖と共生する「エコトーンの再生」をテーマとして掲げるコンセプトホテルです。館内に採用している建築資材や館内のインテリアには滋賀県産の木材、葦を混ぜた土壁を使用し、人工地盤となっている部分は全て緑化を施し、自生する植物の種子を受け入れる事で自然に溶け込む建築となっています。

そんな私たちは2022年9月～「ZERO PROJECT」を始動し、深刻化するプラスチックごみ問題の解決に取り組んできました。「ペットボトルの廃止」「使い捨てアメニティの削減」「ミニボトル入りアメニティの削減」です。取組みを開始する前は、使用せずに残ったアメニティを衛生や安全上の観点で破棄せざるを得ませんでした。ペットボトルをウォーターピッチャーへ変更し、普段使い慣れたアメニティをご持参いただくように呼びかけ、1度きりで捨ててしまうミニボトル入りのプラスチック製バスアメニティを大容量ボトルへ切り替えました。実施前と比較すると約70%のアメニティ提供量の削減を実現する事ができ、「エコトーンの再生」をテーマに掲げるホテルだからこそ、ミッションとして捉え、これからも実行しています。

さらに以下の3つのCirculation Action（資源を循環させる取り組み）を2024年より開始しました。

Action1「日本一大きな湖に日本で一番豊かな森を」

森を豊かに成長させていく為に必要な間伐材ヒノキにアロマを染み込ませ、香りを楽しんでいただくサービスを行っています。

Action2「食品ロスアクション」

規格に満たない野菜を新鮮なまま美味しいスムージーで提供し、農業に向き合い、人々の食生活を支えるプロジェクトを応援しています。

Action3「琵琶湖の生態系を守る ごみゼロ運動」

琵琶湖のゴミ問題により生態系がくずれ、琵琶湖の固有種をはじめ湖魚が減少しています。美しい湖の生態系を守っていくため、定期的にごみゼロ運動を行っています。

これらの取り組みはホテルへ滞在するお客様へ直接的に行うサービスではありませんが、私たちが地域や社会へ還元できる小さな取り組みであると信じ、多くのお客様が集うホテルというひとつのコミュニティを活性化させるための必要なアクションと捉え、これからも実行していきます。



今回はグリーン近江農業協同組合さん
にお願いします。



間伐材ヒノキのアロマ



スムージー

セトレマリーナびわ湖

滋賀県守山市水保町1380-1

TEL : 077-585-1125

URL : <https://www.hotelsetre.com/biwako/>

今さら聞けない用語集

【賞味期限】

おいしく食べることができる期限。定められた方法により保存した場合に、期待される全ての品質の保持が十分に可能であると認められる期限のこと。賞味期限を過ぎても、すぐに食べられなくなるわけではありません。

【消費期限】

過ぎたら食べない方がよい期限。定められた方法により保存した場合、腐敗、変敗その他の品質（状態）の劣化に伴い、安全性を欠くこととなるおそれがないと認められる期限のこと。

【てまえどり】

消費者が食品を購入してすぐに食べる場合に、商品棚の手前にある販売期限の迫った商品を積極的に選ぶ行動のこと。食品ロス削減に有効とされている。

【フードドライブ】

家庭で使いきれない未使用・未開封の食品を持ち寄り、まとめてフードバンク団体や、地域の福祉施設、子ども食堂などに寄贈する活動のこと。英語の「drive」には「運動」の意味があり、フードドライブ（Food Drive）は「あまった食べ物を寄付する運動」をさす。

【フードバンク】

食品企業や農家などから、規格外、返品、箱の損傷など、生産・流通・消費などの過程で生じた、様々な理由で販売できなくなった食品の提供を受けて、必要としている人や施設などに無償で提供する取組のこと。

潮流

衣 循環型ファッション～環境とファッションの両立



日本では1年間に81.9万トン（2020年）の衣類が新しく作られる一方で、その約9割に相当する計78.7万トンが使用後に手放されるとされ、この内廃棄される量は計51.0万トンにも上ると言われています。そのため、この状況を変えようと動いている人が多くいます。

古着市場は盛況で売り上げは伸びています。またリメイクをすることで「一点もの」ファッションを楽しむ人も増え、古着を資源に戻す取り組みも広がっています。

これからは買う時に、どんな素材なのか、捨てない工夫をしているか、そんなことまで考えて買う人が増えるといいですね。

食 食品ロス速報値(2022年度)に経済損失及び温室効果ガス排出量推計値追加



食品ロスは、約472万トン（うち家庭系約236万トン、事業系約236万トン）になり、前年の約523万トンから約50万トンも減少していますが、世界中で飢餓に苦しむ人々に向けた世界の食料支援量（2022年で年間480万トン）とほぼ同等に相当するとのこと。まだまだ途方もない量が食品ロスになっている現実があります。

また今回は、食品ロスによる経済損失及び温室効果ガス排出量も推計されています。食品ロスによる経済損失の合計は4.0兆円（32,125円/人/年）、食品ロスによる温室効果ガス排出量の合計は1,046万トン-CO₂（83kg-CO₂/人/年）となりました。毎日、日本全体でおにぎり約1億個分の損失が出ている計算となり、食品ロスを8%減らすと、エアコン設定温度変更（27℃→28℃）と同等のCO₂削減効果がある計算となるとのこと。

住 断熱・健康・省エネ



日本の住宅は「寒い」家が多いことをご存じですか？世界保健機関（WHO）の指針では、「冬季最低気温18℃以上」を強く勧告していますが、日本では10℃以下になる家屋もまだまだ多くあります。冬場は特にヒートショックのリスクも高く、交通事故の死亡者よりも入浴中の心肺機能停止者数の方が何倍も多い、ということをご存じかと思います。

そこで健康の観点からも住宅の適切な断熱は必要ですし、省エネ・快適性のためにも断熱はとても重要です。余計な光熱費やCO₂削減にも繋がる断熱を考えてみませんか。

他 大事に使おう～「金継ぎ」



「金継ぎ」をご存じでしょうか？ここ数年ブームになっているので聞いたことがある、という方も多くいます。金継ぎとは割れたり欠けたりした陶磁器を漆（うるし）で接着し、継ぎ目に金などを塗って修復する、日本独自の修理法のことです。依頼するケースと自分自身でやるケースがあり、精神集中にもとても良いそうです。よく吟味して買い、壊れても修理して長年使用する、非常に大事なことですね。

一般社団法人滋賀グリーン活動ネットワーク(SGN)に入会すると様々な事業への参加や、サービスをご利用いただけます！SGNに参加して一緒に「グリーン経済」を目指しましょう！



GPプラン滋賀

グリーン購入に取り組む中小企業の登録制度「グリーン購入実践プラン滋賀登録制度」の略称です。登録者は滋賀県グリーン入札に参加できます。（登録料・無料）

啓発資料貸出

各種啓発パネルや学習教材等を学習会や展示イベント等に利用できます。（無料）

会員講師派遣事業

地域事業や大学の講義等に会員講師を派遣する制度です。講師として自分の知識や経験を活かすこともできます。

いちおしグリーン商品リスト

SGNより会員に発行するエコ商品・サービスのリストに自社製品・サービスの情報を掲載できます。（無料）

会員交流

会員総会やセミナー終了後に開催する会員交流会では、他の会員とのつながりを得ることでビジネスチャンスも生まれます。

各種セミナーへの優先的参加

SGNが主催する各種セミナー等に無料もしくは割引価格で参加ができます。

ニュースレター・メルマガ・FAXリリース・ホームページ

環境関連のトピック満載。会員からの情報も掲載できます。（一部有料）

チラシ同封サービス

SGNから会員宛ての郵送物に、低コストでチラシを同封できる正会員限定のサービスです。（有料）

会員商品・活動展示

総会やイベント等で商品・活動を展示し広く紹介することができます。（無料）

グリーン購入キャンペーン

自らのグリーン購入の取組や、地球温暖化防止に関わる取組を見直し、さらに地域に広げるために、毎年、会員連携で実施しています。今はエシカル消費も呼びかけています。

各種イベント等への出展・参加

環境学習の場を提供するイベントへの出展を通して、エコ商品や地場産品の販売や情報提供をさせていただきます。

企画・運営サイドへの参加

部会や研究会等に参加することで「活動をつくる側」に参画できます。新たな発見や仲間づくりにつながります。



会員発エコ商品情報

次号掲載
「エコ商品情報」
募集中!

～クリアーホルダーリサイクルサービス～ 「カウネットLoopla Holder」

株式会社カウネット

使用済クリアーホルダーを回収いたします。(送料負担などはございません) サービス開始から約9か月で1000件の申し込みを突破いたしました。循環型社会の実現に向けて是非ご参加下さい。

クリアーホルダーの販売枚数は市場全体で年間10億枚以上(カウネット調べ)

単一素材で作られ、リサイクルしやすい製品にもかかわらず、多くは焼却処分されているのが現状です。

ご提供いただいた使用済クリアーホルダーを回収し、再資源化・再製品化・販売を行います。

詳細は専用ページをご確認ください。▶



〈お問合せ〉コクヨマーケティング株式会社

TEL : 075-353-0301 担当者: 奥野
E-mail: mitsunori_okuno@kokuyo.com

濁水処理システム 「ミズコシタロウ」

西村建設株式会社

高分子マイクロフィルターやアルミ電極版による電極凝集方式で、化学薬品(凝集剤)を一切使用せず土粒子を取り除くことが可能です。コンパクトなユニット設計なので、トラックで簡単に運搬でき、設置や撤去にも時間がかかりません。工場濁水から重金属汚染水まで幅広く対応可能で、産業廃棄物の減溶化が可能です。

- MTPシリーズ：
高分子マイクロフィルターによる濾過形式
- Gシリーズ：
電極版を搭載した
電気凝集装置
(※処理能力
5~60m³/hrの
各タイプあり)



〈お問合せ〉

西村建設株式会社 担当者: 林 充浩

TEL : 0748-72-1119
FAX : 0748-72-7320
E-mail : eigyo@nishimura-c.co.jp
URL : https://www.nishimura-c.co.jp/



編集後記

連日の猛暑の中、企画展「地球温暖化—東近江市から考える北極の環境変化」開催中(10/6まで)の東近江市西堀榮三郎記念探検の殿堂に行ってきました。西堀 榮三郎は、東近江市にゆかりのある工学者、探検家で初代の南極越冬隊長。それと絡めてでしょうか、温暖化の影響が大きな北極の国際研究プロジェクトとコラボした展示です。東近江の水・空気や生き物の変化と温暖化について知ることができます。はるかかなたの南極、北極が私たちの日常生活とつながっているというのは同じ地球のパーツなのだから当たり前なのでしょうが、不思議な感じもします。あらためて地球全体を見渡す視点の大事さに気付かされました。2000万人の熱死者の発生が冒頭にある近未来気候小説『未来省』(キム・スタンリー・ロビンソン(著)、坂村健(解説))が現実になるかもとを感じるこの夏です。

(滋賀県立大学 教授 / SGN 副会長 高橋卓也)

「アース・オーバーシュート・デー (EOD: Earth Overshoot Day)」はご存じでしょうか? 私たちはどのくらい地球の資源を“使い過ぎ”しているのか、それを表す日です。1年間に地球の生態系から供給される生物資源(バイオキャパシティ)と人間の使用量(エコロジカル・フットプリント)を比較して期日に換算されます。そのため12月31日に近ければ近いほど健全に地球の資源を使っていることとなります。2024年のアース・オーバーシュート・デーは8月1日でした。(昨年は8月2日)これは国別でも換算されており、日本だけだと5月16日とのこと。昨年(5月6日)に比べると、少し遅くなりましたが、日本は地球約2.7個分の暮らしを続けており、依然として資源を使い過ぎていることには変わりありません。日本だけでなく世界各地で起こる様々な問題に目を向けると、今のこの状態を続けてはいけなことは明らかです。

(事務局: T)



編集・発行 / 一般社団法人 滋賀グリーン活動ネットワーク

〒520-0807 滋賀県大津市松本1-2-1 大津合同庁舎6階

TEL: 077-510-3585 FAX: 077-510-3586

Eメール: sgpn@oregano.ocn.ne.jp URL: https://www.shigagpn.gr.jp/

